

東京南線3,4号線改修工事  
環境影響予測評価書案に係る  
審議資料

令和8年3月24日

## 目 次

○検討事項一覧	.....	2
○審査経過等整理票	.....	4

# 検討事項一覧

【東京南線3,4号線改修工事 環境影響予測評価書案】

令和7年度第8回

番号 (項目-資料)	審査内容	対応回
0 事業内容		
0-1	仮設ヘリポートの切土部分の原状復帰について	7⑦
1 大気汚染		
2 水質汚濁		
3 土壌汚染		
4 騒音・低周波音		
4-1	ヘリコプターの騒音・低周波音に係る具体的な環境保全対策について	7⑦
4-2	ヘリコプターの低周波音に係る評価結果について	7⑦
4-3	ヘリコプターに係る騒音・低周波音の条件整理について	今回
4-4	ヘリコプターの低周波音に係る対応について	今回
5 振動		
6 地盤沈下		
7 悪臭		
8 廃棄物・発生土		
8-1	伐採木の処理について	7⑦
8-2	抜根された根の処理について	7⑦
8-3	廃棄物の再資源化率等について	7⑦
8-4	埋め戻しに活用する土について	7⑦
8-5	再利用・再資源化の処理方法について	今回
8-6	陶磁器くずの取扱いについて	今回
8-7	埋め戻し土の締固めについて	今回

# 検討事項一覧

【東京南線3,4号線改修工事 環境影響予測評価書案】

令和7年度第8回

番号 (項目-資料)	審査内容	対応回
9 電波障害		
10 日照阻害		
11 反射光		
12 気象		
13 水象		
14 地象		
15 植物・動物・生態系		
16 文化財		
17 景観		
17-1	景観の予測結果の判断根拠について	7⑦
18 レクリエーション資源		
18-1	ハイキングコースを横断するモノレールの安全対策について	7⑦
19 温室効果ガス		
20 地域分断		
21 安全		

## 0. 事業内容

### 審査経過等整理票

【東京南線3.4号線改修工事 環境影響予測評価書案】

令和7年度第8回

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<p>(審査会前のメール)            図書4-2-18ページその他工事について、工事用地は原状復帰するとあるが、仮設ヘリポートの切り地した箇所については何らかの工事を行うのか。</p> <p>(検討事項)0-1            仮設ヘリポートの切土部分の原状復帰について</p> <p>工事の事業内容について、より理解することができた。</p>	<p>R7⑥ 口頭</p> <p>R7⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘリポートの切土部分については、切ったまま復元をせず対応する予定である。</li> <li>原状復帰による土砂崩壊等を回避するため、復元しない予定であることを説明した。</li> </ul>	<p>検討事項 (0-1)</p> <p>確認事項</p>





委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低周波音については、予測及び抑制に不確実性が残り得ることを踏まえ、関係者及び周辺住民との事前の情報共有・確認の方法並びに想定外の影響が確認された場合の対応方針についても、あらかじめ整理されたい。</li> </ul>	R7⑦ 口頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状、教育委員会との中では、窓を閉め切ることは必須という認識でいるので、その締め切った時の対応方法について協議を進めている。</li> <li>最終的には、飛行回数などを詰めた上で、ヘリの物流の期間、時間を決定する。</li> <li>質問の内容については、予測評価書にしっかりと反映する対応をしたい。</li> </ul>	検討事項 (4-4)

## 8. 廃棄物・発生土

### 審査経過等整理票

【東京南線3.4号線改修工事 環境影響予測評価書案】

令和7年度第8回

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書4-3-1ページ廃棄物量について、伐採木は現地置きとあるが、どれくらいの伐採木が発生するのか。防災や環境保護の観点から問題のない量といえるのか。</li> </ul> <p>(検討事項)8-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伐採木の処理について</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ より理解することができた。</li> </ul>	<p>R7⑥ 口頭</p> <p>R7⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工事用地の伐採木の量ということだが、今は量を本数で出しているが、立方メートルでどれくらいというところまでは数量を出していないため、必要であれば後日回答したい。</li> <li>・ 伐採予定数量から体積を算定し、工事用地内に現地置き(高さ50cm)した場合の伐採木の占める面積比率を示して、防災の観点からも問題ないことを説明した。</li> </ul>	<p>検討事項(8-1)</p> <p>確認事項</p>
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掘削において、抜根もありうるのか。その場合、抜根された根はどのように処理されるのか。</li> </ul> <p>(検討事項)8-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抜根された根の処理について</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ より理解することができた。</li> </ul>	<p>R7⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎の掘削に支障となる木は伐根し、伐根された根は現地置きすることを説明した。</li> </ul>	<p>検討事項(8-2)</p> <p>確認事項</p>

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃棄物に対して、コンクリートガラがどれくらい発生するか、金属くずと陶磁器くずは有価物として売却するということは書かれているが、再利用、再資源化可能なものや、再資源化できない処分量がどれくらいの量想定されるか、通常であれば予測評価書案の段階なので、定量的に示すことが求められる。 一般的な神奈川県内の資源化率ではなく、本事業において想定される資源化率、処分量といったところを定量的に示してほしい。</li> </ul> <p>(検討事項)8-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃棄物の再資源化率等について</li> <li>・ 再利用率、再資源化率が具体的に示された。ありがとうございました。 実際に100パーセントという数字が実現できるか、先ほど指摘もあったが、その方策も含めて、予測評価書段階ではしっかり記述してほしい。</li> </ul>	<p>R7⑥ 口頭</p> <p>R7⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃棄物の再資源化率については、持ち帰り検討する。</li> <li>・ 金属くず及び陶磁器くずは全量を産業廃棄物として処分せず、有価物として売却して再利用すること、コンクリートがらは全量を再資源化することを、説明した。</li> </ul>	<p>検討事項 (8-3)</p> <p>確認事項</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃棄物の再資源化率が100パーセントと予定されているが、処理方法について目途がついているということなのか。どこの処理業者に出すのか、具体的に分かっていて、100パーセント再資源化できるという見通しが立っているのか。あと、金属くずは有価だと思われるが、陶磁器くずについても、有価物として処理できるものなのか。</li> <li>・ 誤解のないような書きぶりしてほしい。 陶磁器くずは有価物として売却するかどうか不明瞭な説明だったと思う。メーカーで再資源化を行うとのことだが、廃棄物として扱うかどうか不明なところがある。この文章だと全量を有価物として再利用すると読めるため、記載を正確にしてほしい。</li> </ul>	<p>R7⑦ 口頭</p> <p>R7⑦ 口頭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再資源化率100パーセントについては、再資源可能な処理施設へ搬出処理を依頼することで考えている。過去の工事でも、コンクリートがらについては、再資源可能なところへ処理するよう実施しているため、同様に扱いたいと考えている。どこで処理するかは、これからであるため、現状では場所を明確にできない状況である。 陶磁器くずは「がいし」というものになる。がいしは、当社の資材センターで流用できるかどうか判定し、その後、流用できないものは、メーカーでの再資源化になるという流れである。</li> <li>・ 陶磁器くずの部分について、表現が良くないという認識で受け止めた。表現の見直しを含めて検討する。</li> </ul>	<p>検討事項 (8-5)</p> <p>検討事項 (8-6)</p>

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書4-3-1ページ発生土について、「速やかに場外へ搬出し」とあるが、埋め戻しに活用される土はないのか。</li> </ul> <p>(検討事項)8-4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 埋め戻しに活用する土について</li> </ul> <p>(袖野委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 埋め戻しに使えるものは使うということで、量も示していただいた。資料3-2の8-4のところ、埋め戻しについて締め固めを考慮していない量ということだが、埋め戻しの際に締め固めしなくて大丈夫かどうか聞かせてほしい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誤解のないような書きぶりにしてもらいたい。発生土については、安全側の数字を出しているということだが、実際の工事では締め固めもちゃんと行うということだから、それも記載いただきたいと思う。</li> </ul>	<p>R7⑥ 口頭</p> <p>R7⑦</p> <p>R7⑦ 口頭</p> <p>R7⑦ 口頭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発生土について、埋め戻し分は工事用地内にいったん仮置きをしておくという計画である。それ以外の残土として搬出するものについては、その都度搬出するという予定である。その都度搬出することによって、工事用車両の通行を低減、通行が集中しないようにすることも対応できるため、そのように考えている。</li> <li>・ 発生土量、埋め戻し量、搬出量を示し、既設基礎部分の埋め戻し土として発生土の一部を活用することを説明した。</li> <li>・ 締め固めを考慮していないという表現だが、当然締め固めはしっかり行う予定である。社内基準では、現地盤の80から90、80パーセント以上というところを目標に締め固めを実施している。ただ、締め固めを考慮していない数量になっていることについては、表現が悪いのかもしれないが、実際は締め固めをしっかりと行なって埋め戻す予定でいる。</li> <li>・ 埋め戻しのところの表現が良くないという認識で受け止めた。表現の見直しを含めて検討させていただきたいと思う。</li> </ul>	<p>検討事項 (8-4)</p> <p>検討事項 (8-7)</p>

## 審査経過等整理票

【東京南線3,4号線改修工事 環境影響予測評価書案】

令和7年度第8回

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>景観の予測結果について、図書5-2-395～401ページの写真から、影響は軽微である、あるいは変化が小さいという事は把握できたが、図書5-2-393～394ページの表5-2-159「主要な眺望点からの景観の変化の状況」における予測結果はどのように判断したのか。同表に記載されている「垂直視野角」の数值は、予測結果の判断根拠となるのか教えてほしい。</li> </ul>	R7⑥ 口頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>後日、回答する。</li> </ul>	検討事項 (17-1)
<p>(検討事項)17-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>景観の予測結果の判断根拠について</li> </ul>	R7⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>「景観対策ガイドライン(案)」に示される垂直視野角と鉄塔の見え方について、判断根拠としたことを説明した。</li> </ul>	確認事項

審査経過等整理票

【東京南線3,4号線改修工事 環境影響予測評価書案】

令和7年度第8回

委員質問・意見	回答形式	対応	取扱い
<p>(審査会前のメール)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション資源への影響の回避、低減手段について、自然とのふれあいの場、利用の場が近接地域に複数存在することから、影響の回避・低減手段は確実に行使頂きたい。 図書5-2-407ページに記載されている、大楠山ハイキングコースを横断するモノレールを上空に通すという方策について、危険などはないか、実像が浮かばないため危惧を感じるが、大丈夫か。</li> </ul> <p>(検討事項)18-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハイキングコースを横断するモノレールの安全対策について</li> </ul>	<p>R7⑥ 口頭</p> <p>R7⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイキングコースのモノレールの横断の部分の安全対策については、図書の5-2-405ページでこのような対策をするということで、まずモノレールの通行時にハイカーがいる場合はモノレールを手前で一旦停止をさせ、落下物に対する対応としてはモノレール橋にネットを張り、通行時に落下がないようにという、その2点を考えている。  ※環境保全対策が書かれているのは5-2-407ページ</li> <li>ハイキングコースを横断する場合の対策について説明した。</li> </ul>	<p>検討事項(18-1)</p> <p>確認事項</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>事実関係の質問だが、ハイキングコースの迂回や通れなくなるような場所はないということでよいか。</li> <li>わかった。 その上で、ハイキングコースが変わらないということは、工事を行っているかどうか分からない状態が入ってくる方がいる可能性がある。 環境保全対策等にはモノレールや車両走行時に気をつけることは書かれているが、そもそも工事を行っていることがこれまでハイキング道を利用している方や初めて行く方に伝わるような対策も取ると、より効果的な事故等の未然防止になるのではないかと思う。 環境保全には人と自然との触れ合いという部分での環境保全も含まれているので、そういった対策も講じていただけるように、どこかに今後記載することは可能か。</li> <li>よろしく願いしたい。 交通量へのインパクトの評価は低いとなっているが、ハイキングコースとの接触部分では、そういった評価だけではないリスクもあると思うので、個別のリスクに応じた有効な対策を検討してほしい。よろしく願いしたい。</li> </ul>	<p>R7⑥ 口頭</p> <p>R7⑥ 口頭</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハイキングコースの迂回は実施しない方向で調整している。 ハイキングコースを寸断せず、モノレールは上空を横断させて、ハイカーはモノレール橋の下を歩く方法を考えている。</li> <li>ハイキングコースの近隣で工事を行っていることに対する周知方法については、関係行政等と詰めていきたい。 横断箇所の前には注意喚起の看板を付ける所があるが、ハイキングコースの入口などにも必要であれば対応を考えたい。</li> </ul>	<p>確認事項(指摘事項)</p>